

その2 主婦の年代別比較

東京ガス(株) 都市生活研究所 ○大久保窓香 馬場きよみ 藤井哲哉

〔目的〕世の中に冷凍食品などの食簡便化食品が出回り、手軽な外食店の数も増え、食生活を取りまく環境は近年大きく変わってきた。中でもこれらの食の簡便化に抵抗がないのは若い世代で、便利なものは利用しようという合理的な主婦が増えてきている。当調査は世界3都市の主婦の食生活実態を通して、主婦の年代による食生活の違いを考察するものである。

〔方法〕ニューヨーク500人、パリ500人、東京702人にアンケート調査を実施。

(詳細は、「その1」を参照。)

〔結果〕前年令を通じて、東京の外食頻度が低い、ニューヨークで食事を作る回数が低い等、お国柄の違いはあるものの、年齢別に特徴をみると、三都市に共通する項目も多いことが明らかになった。

- ・食事をつくる頻度は、三都市ともに若い主婦ほど低い。
- ・年齢が高いほど買物は専門店(肉屋・魚屋・八百屋など)を利用し、若い人ほどスーパーですませる傾向が、パリと東京でみられた。
- ・若い主婦ほど外食頻度が高い傾向が、パリと東京でみられた。
- ・若い主婦ほど簡便化食品の利用率が高い傾向が、パリと東京でみられた。

三都市を通じて、若い主婦は合理的に調理を済ませる人が多く、外食頻度も高い。一方年齢の高い主婦ほど料理が好きで、簡便化食品などもあまり使わず、よく食事を作っているのが特徴である。